

令和3年サワラ春漁の漁況予報

令和3年4月5日

香川県水産試験場

サワラ幼魚の資源量は、発生年によって変動が大きく、その多寡が翌年以降の漁獲量を左右します。そこで、0歳魚資源尾数を用いて、令和3年のさわら流しさし網の春漁期における各年齢魚の漁獲状況を推定し、漁況予測を行いました。

1. 0歳魚資源尾数の推定

0歳魚資源尾数は、国立研究開発法人水産研究・教育機構が、毎年度、サワラ瀬戸内海系群の資源評価を行って公表しており、令和元年発生群まで示されています。

一方、香川県水産試験場においても、県内海域で8月に収集した0歳魚の平均サイズや、播磨灘の大型定置網によるキノゴ銘柄の漁獲量等から、令和2年発生群までの0歳魚資源尾数を推定しています。

漁況予測には資源評価による推定値を用いました。ただし、令和元年発生群については誤差が大きいとされているので、これと香川県水産試験場による推定値の平均としました。また、令和2年発生群は香川県水産試験場による推定値を用いました。

2. 令和3年春漁の漁況予測

0歳魚資源尾数の推移と春漁における漁獲の関係を次ページの図に示します。

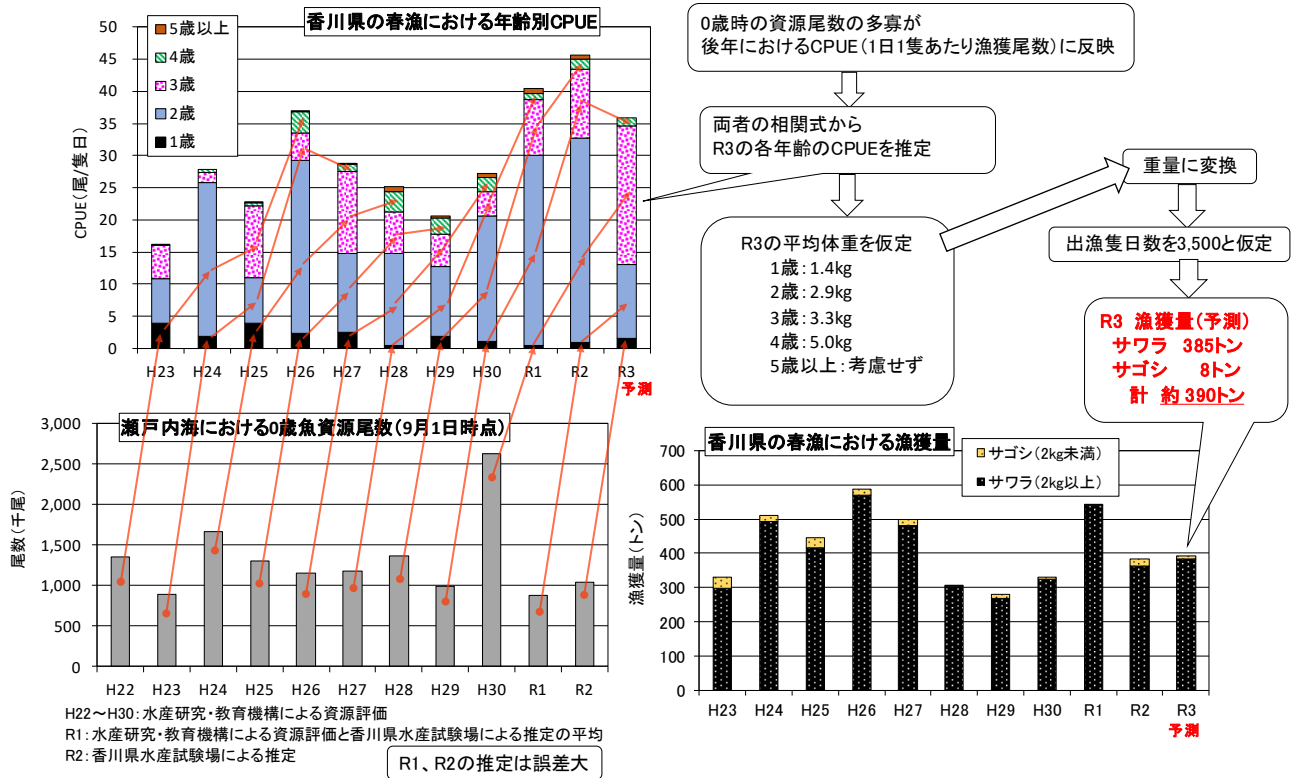
このうち、左下の図は、瀬戸内海における0歳魚資源尾数ですが、年によって変動が大きいことがわかります。左上の図は、香川県の春漁における漁獲尾数の年齢構成の推定結果ですが、2歳魚および3歳魚を主体として、組成は年によって異なっています。

0歳魚が多ければ、その2年後に2歳魚、3年後に3歳魚、4年後に4歳魚が多めに漁獲され、少なければその逆になるような相関関係があります（赤い矢印で年齢の移行を示しています）。この関係を使って、令和3年の漁獲尾数における年齢構成を計算したところ、2歳魚はかなり少なく、3歳魚はたいへん多いという結果になりました。

操業隻日数が前年と同程度であると仮定し、重量に変換すると、右下の図に示すように、令和3年の漁獲量は約390トンとなりました。

以上のことから、令和3年の春漁においては、前年に多獲された2歳魚が3歳魚となって多数来遊して漁獲の主体となると考えられます。漁獲される合計尾数は前年より減少するものの、漁獲サイズは全体的に前年より大きくなると見込まれ、漁獲量は前年並みになると予測されます。

なお、令和元年および2年発生群の資源尾数は、かなりの推定誤差を含んでいます。また、海域による漁獲の偏りが大きい場合や出漁隻日数が大幅に異なった場合は、予測と異なる漁獲量になることがあります。



令和2年度サワラ瀬戸内海系群の資源評価では、水準は中位、動向は増加とされています。また、管理方針の提言において、高齢魚が少ないため、2、3年加入が少ない年が続くと、資源量が減少する可能性が高い状況にあることから、若齢魚を獲り残し、高齢魚の割合を上昇させる方向性が望ましいと述べられています。少なくとも現状の資源管理の取組みを緩めることなく、今後とも継続することが必要です。